

一般社団法人  
東京都マンション管理士会

## 定 款

一般社団法人東京都マンション管理士会

〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-3-8 JP-BASE 神田5階

TEL 03-5829-9130 FAX 03-5829-9164

改正：2024.2.26



## 第1章 総則

(名称)

第1条 本会は、一般社団法人東京都マンション管理士会（以下「当法人」という。）と称する。

(主たる事務所の所在地)

第2条 当法人は、主たる事務所を東京都千代田区に置く。

(定義)

第3条 この定款においては、次に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- 一 法人法 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律をいう
- 二 適正化法 マンションの管理の適正化の推進に関する法律をいう
- 三 会員 法人法上の社員をいう
- 四 日管連 一般社団法人日本マンション管理士会連合会をいう
- 五 会員会 日管連の会員会である都道府県マンション管理士会をいう
- 六 登録マンション管理士 当法人に所属し、日管連に登録するマンション管理士をいう
- 七 所属マンション管理士 当法人に所属するマンション管理士をいう
- 八 総会 法人法上の社員総会をいう
- 九 理事長 法人法上の代表理事をいう
- 十 入会 法人法上の入社をいう
- 十一 退会 法人法上の退社をいう

(日管連定款及び倫理規程等の遵守)

第4条 会員は、当法人の定款及び倫理規程はもとより、適正化法等関連法令並びに日管連の定款及び倫理規程を遵守しなければならない。

(品位)

第5条 当法人は、会員の品位を保持し、その業務の改善推進を図るため、会員の指導・連絡・監督に関する事務を行う。

(他のマンション管理士会への入会)

第6条 会員は、重複して日管連傘下の他のマンション管理士会あるいは日管連に加盟していないマンション管理士会（紛らわしい名称を冠した団体を含む。）の会員となることはできない。

## 第2章 目的及び事業

(目的及び事業)

第7条 当法人は、日管連並びに東京都及び関係団体との連携、協力などにより、会員の活動を支援するとともにマンション管理士制度の普及、周知を通じてマンションの管理の適正化に資することを目的とする。

2 当法人は、前項の目的を達成するため次の事業を行なう。

- 一 会員の指導・支援に関すること
- 二 会員の日管連への登録に関すること
- 三 研修に関すること
- 四 会報の編集及び発行に関すること
- 五 広報活動に関すること
- 六 マンション管理に関する情報収集及び情報の公開に関すること
- 七 日管連並びに東京都及び関係団体との連携、協力に関すること
- 八 マンション管理士制度の普及、周知に関すること
- 九 日管連並びに東京都及び関係団体等に対する要望活動に関すること
- 十 マンション管理に関する調査研究及び出版に関すること。
- 十一 行政の委託を受けて行うマンション管理施策に関わる調査研究等事業に関すること。
- 十二 前各号に掲げる事業に付帯又は関連する事業に関すること

(公告方法)

第8条 当法人の公告は、電子公告の方法による。

2 電子公告の方法による公告をすることができない事故その他やむを得ない事情が生じた場合には、官報に掲載してする。

(機関)

第9条 当法人は、当法人の機関として総会及び理事以外に理事会及び監事を置く。

## 第3章 会員

(会員の資格)

第10条 当法人の会員は、東京都内に住所又は事務所(マンション管理士の事務所に勤務している場合は、その勤務先を事務所として取扱う。)を有するマンション管理士とする。

(入 会)

- 第 1 1 条 入会を希望するマンション管理士は、理事長に所定の入会申込書を提出し、理事会の承認を得なければならない。
- 2 前項の入会申込書には、次条の書類を添付しなければならない。
- 3 入会審査については、別に規則で定める。

(会員の日管連への登録)

- 第 1 2 条 当法人は、所属マンション管理士について、日管連が定める登録申請書を日管連に提出し、登録マンション管理士として登録しなければならない。
- 2 前項の登録申請書には、次に掲げる事項を記載し、登録を受けるマンション管理士が署名捺印しなければならない。
- 一 氏名及び性別
  - 二 生年月日
  - 三 住所及び事務所の名称・所在地
  - 四 試験の合格年月日及び合格証書番号
  - 五 登録番号及び登録年月日
- 3 第 1 項の登録申請書には、次に掲げる書類を添付しなければならない。
- 一 住所又は事務所を証する書面
  - 二 略歴書
  - 三 マンション管理士登録証 (写)
  - 四 登録講習終了証 (写)
  - 五 誓約書
  - 六 写真 1 葉

(年会費等)

- 第 1 3 条 会員は、第 1 1 条の入会申込が承認されたときは、別に定める期日までに、当法人に入会金及び年会費を納入しなければならない。
- 2 前項に定めるもののほかに、会員は日管連登録料を当法人に納入しなければならない。
- 3 当法人は、日管連登録申請書と共に、前項の日管連登録料を日管連に納入する。
- 4 当法人は、毎年 6 月 1 日現在における所属マンション管理士数に応じた日管連年会費を、9 月末までに日管連に納入する。
- 5 当法人の入会金及び年会費については、別に入会金及び会費等に関する規程を定めるものとする。
- 6 日管連登録料については、日管連の規程の定めによる。
- 7 既に納入された入会金、年会費及び日管連登録料は返還しない。

(会員名簿)

- 第14条 当法人は、会員の氏名、住所及び事務所等を記載した会員名簿を作成し、当法人の主たる事務所に備え置くものとする。会員名簿をもって法人法第31条に規定する社員名簿とする。
- 2 当法人の会員に対する通知又は催告は、会員名簿に記載した事務所又は住所にあてて行うものとする。

(届出)

- 第15条 会員は、氏名、住所又は事務所等の変更があった場合は、遅滞なく理事長に届け出なければならない。
- 2 当法人は、毎年6月1日時点における所属マンション管理士及び役員を日管連に届け出るものとする。

(退会)

- 第16条 会員は、別に定める退会届を理事長に提出し、いつでも退会することができる。

(会員資格の喪失)

- 第17条 会員は、次の各号に該当する場合は、会員資格を喪失する。
- 一 第10条に抵触することとなったとき
  - 二 登録マンション管理士でなくなったとき
  - 三 正当な理由なく年会費等を6か月以上滞納したとき
  - 四 除名されたとき
  - 五 死亡したとき
  - 六 適正化法第33条第1項によって、マンション管理士の登録を取り消されたとき
  - 七 総会員の同意があったとき
- 2 前項に該当する会員が、当該時点で発生している会費その他の債務等、当法人に対して負担する債務は、会員資格喪失後も、その債務が履行されるまで消滅しない。債務については、その一切を一括して履行するものとする。

(懲戒)

- 第18条 次の各号に該当する事実があるときは、理事会決議又は総会決議を経て、懲戒することができる。この場合において、第44条は適用しない。
- 一 当法人の事業を妨げ、又は当法人の名誉を著しく傷つける行為をしたとき

- 二 当法人の定款、規程及び規則等並びに日管連の倫理規程に違反した行為をしたとき
  - 三 その他懲戒すべき正当な理由があるとき
- 2 懲戒は、次の5種とする。
    - 一 口頭注意
    - 二 文書戒告
    - 三 1年以内の会員資格の停止
    - 四 退会勧告
    - 五 除名
  - 3 前項第四号の懲戒を受けた者が、懲戒規程に定める期間内に退会届を提出しないときは、理事会は、除名の手続を行うものとする。
  - 4 第2項第三号の処分により停止される会員の権利は、次のとおりとする。
    - 一 当法人の役員候補者の推薦及び被選任に関する権利
    - 二 当法人の会議及び研修会に出席する権利
    - 三 当法人と各自治体で提携する各種事業に参画する権利
    - 四 当法人からの文書の送付を受け、用紙及び図書並びに物品の斡旋、頒布を受ける権利
    - 五 当法人の福利厚生及び共済による金銭等の給付を受ける権利
  - 5 懲戒の審査対象となっている会員は、懲戒手続きが行われている間、会員の資格を喪失しない。この場合において、第16条及び第17条の規定についてはこれを適用しない。
  - 6 懲戒に関する審査は、綱紀調査委員会において調査及び審査を行う。ただし、利害関係がある委員は、委員会の調査及び審査に参加できない。
  - 7 当法人は、会員に対する第2項第一号から第四号までの懲戒を決定するときは、理事会の決議を経なければならない。
  - 8 当法人は、前項の懲戒を決定するときは、対象となる会員に弁明の機会を与えなければならない。
  - 9 当法人は、会員を第2項第五号に定める除名をするときは、第27条第2項に基づく総会の議決を経なければならない。この場合において、除名の対象となっている会員に対して、総会開催の一週間前までに、懲戒規程で定める事項を通知しなければならない。
  - 10 理事長は、前項の除名がなされた場合は、遅滞なく、除名した会員の氏名及びその理由を全会員（除名した会員を含む。）に通知する。
  - 11 理事長は、第2項第三号から第五号の懲戒処分が決定されたときは、日管連、東京都及び関連の区市町村に通知する。
  - 12 第2項第四号の退会勧告に基づいて退会した会員は、退会した日から2年間、第五号の除名を受けた会員は、その処分決定日から4年を経過するまでの間、当法人に入会申込はできない。
  - 13 綱紀調査委員会の運営及び審査規準については、綱紀調査委員会規

程に定める。

1 4 懲戒に関する手続については、懲戒規程に定める。

## 第4章 総会

(総会の種類)

第19条 総会は、定時総会及び臨時総会とし、定時総会は、毎年1回2月に開催する。臨時総会は理事会の招集の決定の決議があった場合又は第23条の招集の請求があった場合に開催する。

(構成及び議決権)

第20条 総会は、会員をもって構成する。

2 会員は、各1個の議決権を有する。

3 会員は、書面又は代理人によって議決権を行使することができる。

4 会員が代理人により議決権を行使しようとする場合において、その代理人は当法人の会員でなければならない。

5 代理人は代理権を証する書面を理事長に提出しなければならない。

(招集)

第21条 総会は理事長が招集する。

2 総会の招集は、理事の過半数で決する。

3 理事長は、総会を招集しようとするときは、開催日の2週間前までに、招集の目的、会議の日時及び場所を記載した書面をもって会員に通知しなければならない。

(招集手続の省略)

第22条 総会は、会員全員の同意があるときは、招集手続を経ずに開催することができる。

(請求に基づく招集)

第23条 理事長は総会員の議決権の5分の1以上の議決権を有する会員から、会議の目的及び招集を必要とする理由を記載した書面をもって、臨時総会の招集の請求があったときは、遅滞なく総会を招集しなければならない。

2 前項の請求者は、理事長が、前項の請求の後遅滞なく招集手続を行わない場合は、第21条の規定にかかわらず、裁判所の許可を得て、総会を招集することができる。

(議決事項)

第24条 総会は、次の事項を決議する。

- 一 定款の制定、改正に関する事
- 二 倫理規程及び綱紀調査委員会規程の制定、改正に関する事
- 三 細則の制定、改正、廃止に関する事
- 四 決算に関する事
- 五 事業計画と会計予算に関する事
- 六 役員及び綱紀調査委員の選任又は解任に関する事
- 七 当法人の入会金、会費の変更に関する事
- 八 基金の募集及び返還に関する事
- 九 資金の借入及び返済に関する事(第52条第2項に定める事項を除く)
- 十 会員の除名に関する事
- 十一 当法人の合併、解散に関する事
- 十二 日管連の退会に関する事
- 十三 特別会計の設置に関する事
- 十四 その他総会で決議すると理事会が決議した事項

(議長)

第25条 総会の議長は、理事長又は理事長が指名する事務局長以外の理事がこれにあたる。

(定足数)

第26条 総会は、総会員の議決権の過半数を有する会員が出席しなければ、会議を開くことはできない。

(決議の方法)

第27条 総会の議事は、法令に別段の定めがある場合を除き、出席した会員の議決権の過半数で議決する。

- 2 前項にかかわらず、第24条第一号、第二号、第六号(監事を解任する場合に限る。)、第九号から第十一号までの事項は、総会員の議決権の3分の2以上で議決する。
- 3 前条及び前2項の場合において、書面又は代理人によって議決権を行使する者は、出席会員とみなす。

(総会の決議の省略)

第28条 総会の決議の目的たる事項について、理事又は会員から提案があった場合において、その提案に会員の全員が書面によって同意の意思表示をしたときは、その提案を可決する旨の総会の決議があったものと

みなす。

- 2 前項の書面は、次条第1項の備え置く期間及び第2項の閲覧請求の規定を準用する。

(議事録)

- 第29条 議長は、議事録を作成し、それに議長及び出席した会員のうち2名が署名又は記名押印して10年間当法人の主たる事務所に備え置くものとする。
- 2 会員及び債権者は、当法人の業務時間内に、議事録の閲覧を請求することができる。

## 第5章 理事及び監事

(役員の数)

- 第30条 当法人の理事は7名以上21名以内、監事は2名以内とする。

(役員を選任等)

- 第31条 役員は、会員の中から、総会の決議により選任する。
- 2 理事会決議により、理事の中から、理事長1名、副理事長若干名、事務局長1名を選定し、解職する。
- 3 次の各号の一に該当する者は、理事長になることができない。
  - 一 マンション管理業を営む者又はマンション管理業者の役員及び従業員に地位にある者
  - 二 マンションの大規模修繕工事(計画的修繕工事)の設計監理の受託を業とする者又はその受託を業とする会社の役員及び従業員に地位にある者
  - 三 マンションの日常の修繕又はマンションの大規模修繕工事(計画的修繕工事)の受注を業とする者又はその受注を業とする会社の役員及び従業員に地位にある者
- 4 理事と監事は兼ねることはできない。
- 5 役員資格については、別に役員選任規程で定める。
- 6 理事は、次に掲げる場合には、理事会において、当該取引につき重要な事実を開示し、その承認を受けなければならない。
  - 一 理事が自己又は第三者のために当法人の事業の部類に属する取引をしようとするとき
  - 二 理事が自己又は第三者のために当法人と取引をしようとするとき
  - 三 当法人が理事の債務を保証することその他理事以外の者との間において当法人と当該理事との利益が相反する取引をしようとするとき

(役員 の 職務)

第 3 2 条 理事長は、代表理事とする。

2 理事長は、当法人を代表し、当法人の業務を統括する。

3 副理事長は理事長を補佐し、理事長に事故あるときはその職務を代理し、理事長が欠けたときは理事長の職務を行なう。

4 事務局長は当法人の事務を所掌し、事務局を統括する。

5 監事は当法人の業務の執行及び財務の状況につき監査を行ない、その結果を定時総会において報告しなければならない。

(役員 の 任期)

第 3 3 条 理事の任期は、選任後 2 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時総会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 監事の任期は、選任後 2 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時総会の終結の時までとし、再任を妨げない。

3 任期満了前に退任した理事又は監事の補欠として選任された者の任期は、前任者の任期の残存期間と同一とする。

4 増員により選任された理事の任期は、他の在任理事の任期の残存期間と同一とする。

(役員 の 解任)

第 3 4 条 理事及び監事は、総会の決議によって解任することができる。

(役員 の 退任 勧告)

第 3 5 条 理事会は、役員が次の各号に該当するにいたったときは退任の勧告をすることができる。

一 役員が当法人の会員でなくなったとき

二 第 1 8 条第 2 項第三号から第五号の懲戒処分を受けたとき

三 理事長が、第 3 1 条第 3 項の定め に 該 当 す る こ と と な っ た と  
き

(役員 の 報酬 ・ 費用 支弁)

第 3 6 条 役員 の 報酬 そ の 他 の 職務 執行 の 対 価 と し て 当 法 人 か ら 受 け る 財産 上 の 利益 は、総会 の 決議 を も っ て 定 め る。

2 役員 が 当 法 人 の 業務 を 執行 す る た め に 要 し た 費用 は、理事会 の 承認 を 得 て 支 弁 す る。

(顧問)

第37条 当法人に顧問を置くことができる。

2 顧問は理事会の決議を得て理事長が委嘱する。

3 顧問は、当法人の運営上重要事項について理事長の諮問に応じる。

## 第6章 理事会

(構成)

第38条 理事会は、理事で構成する。

(議決事項)

第39条 理事会は、次の事項を議決する。

一 会員の入会の承認に関する事

二 事務局並びに委員会及び研究会の設置及び改廃に関する事

三 規則及び規程等の決定に関する事(倫理規定及び及び綱紀調査委員会規程を除く)

四 事業の執行方法に関する事

五 総会に付議すべき議案に関する事

六 事業報告、決算に関する事

七 事業計画、収支予算に関する事

八 資産の管理に関する事

九 理事長、副理事長、事務局長の選定、解職に関する事

十 理事の職務の執行の監督に関する事

十一 日管連総会の議決権行使に関する事

十二 支部の設置・統合・廃止に関する事

十三 行政の委託を受けて行うマンション管理施策に関わる調査研究等事業に関する事

十四 前項の事業を行うための一定資金の借入及び返済に関する事

十五 その他当法人運営上必要な事項

(招集)

第40条 理事会は、理事長が招集し、会日の1週間前までに各理事及び各監事に対して招集の通知を発するものとする。ただし、緊急の場合にはこれを短縮することができる。

2 理事長は、理事から請求があったときは、理事会を招集しなければならない。

3 前項の場合、理事長は5日以内に、その日から2週間以内の日を会日とする臨時理事会を招集しなければならない。

- 4 理事長が、前項による臨時理事会を招集しない時は、開催を求めた理事が招集する。
- 5 監事は、法人法第100条に規定する場合において、必要があると認めるときは、理事長に対し、理事会の招集を請求することができる。

(招集手続の省略)

第41条 理事会は、理事及び監事の全員の同意があるときは、招集手続を経ずに開催することができる。

(議長)

第42条 理事会の議長は、理事長がこれに当たる。ただし、理事長に事故もしくは支障等があるときは、理事長があらかじめ理事会の承認を得て定めた順位にしたがい副理事長がこれに代わるものとする。

(理事会の決議)

第43条 理事会の議事は、議決について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、出席理事の過半数で議決する。

- 2 監事は、理事会に出席し、必要があると認めるときは、意見を述べなければならない。

(理事会の決議の省略)

第44条 理事が理事会の決議の目的である事項について提案をした場合において、当該提案につき議決に加わることができる理事の全員が書面により同意の意思表示をしたとき(監事が当該提案に異議を述べた場合を除く。)は、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなす。

(職務の執行状況の報告)

第45条 理事長、副理事長及び担当業務を委嘱された理事(以下「担当理事」という。)は、3か月に1回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告するものとする。

(理事会議事録)

第46条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成し、理事会に出席した理事長(理事長に事故若しくは支障等があるときは議長となった副理事長)及び監事が署名又は記名押印して10年間当法人の主たる事務所に備え置くものとする。

## 第7章 委員会

### (委員会の設置)

第47条 当法人に綱紀調査委員会を置くほか、当法人の運営及び特定事業に係る調査研究のために必要あるときは、理事長は理事会決議を経て、委員会を設置することができる。

2 委員会は、常任委員会と特別委員会とする。

3 綱紀調査委員会を除く常任委員会及び特別委員会の委員長及び委員は、理事会決議を経て、理事長が委嘱する。

4 委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、別に委員会規程で定める。

## 第8章 基金

### (基金の募集)

第48条 当法人は、総会の決議により、基金を引き受ける者の募集をすることができる。

### (基金の返還)

第49条 基金の返還は、定時総会の決議によって行わなければならない。

2 拋出された基金は、基金拋出者と合意した期日までは返還しない。

3 基金の拋出者に対する返還は、返還する基金の総額について第1項の決議を経た後、理事会が決定したところに従って行う。

4 基金は、その拋出後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する通常総会の終結時までは返還することができない。

## 第9章 財産及び会計

### (事業年度)

第50条 当法人の事業年度は、毎年1月1日から12月31日までの年1期とする。

### (収入)

第51条 当法人会計の収入は、会員の入会金、年会費並びに寄付金及びその他収入とする。

### (借入の実行)

第52条 当法人は、事業資金の調達のために、総会の決議に基づき借入をすることができる。

2 前項にかかわらず、第7条第2項第十一号の事業を行うための一定資

金は、理事会決議に基づき、借入及び返済をすることができる。

3 前項の一定資金の借入に関する規準等は、別に細則を定める。

(返 済)

第53条 借入金の返済は、事業収入及び会費収入より行う。

2 借入金の返済資金が不足する場合には、総会の決議により会員に対してその負担を求めることができる。

(支 出)

第54条 当法人会計の支出は、事業に要する経費及び事務運営に要する経費とする。

(特別会計)

第55条 第7条第2項第十一号に定める行政の委託を受けて行うマンション管理施策に関わる調査研究等事業に関する会計は、他の会計と区分して特別会計とする。

2 特別会計は、総会の決議を経なければ、他の会計に流用することはできない。

(事業計画及び収支予算)

第56条 理事長は、法令の定めるところに従い、事業計画書及び収支予算書を作成し、理事会の決議を経て、総会の承認を得なければならない。これを変更する場合も同様とする。

2 前項の規定にかかわらず、やむをえない理由により予算が成立しないときは、理事長は、総会の決議に基づき、予算成立の日まで、前年度の予算に準じ収入を得又は支出することができる。

3 前項の収入・支出は、新たに成立した予算の収入・支出とする。

4 第1項及び第2項の書類については、主たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間備え置くものとする。

(事業報告及び決算)

第57条 理事長は、法令の定めるところに従い、毎事業年度終了後、次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会決議を経て、定時総会に提出し、第一号及び第二号の書類についてはその内容を報告し、第三号から第五号までの書類については、承認を得なければならない。

一 事業報告

二 事業報告の附属明細書（監事の監査報告書を含む）

三 貸借対照表

#### 四 損益計算書

#### 五 貸借対照表及び損益計算書の付属明細書

(計算書類等の保存)

第58条 当法人は、前条第三号から第五号までに掲げる計算書類等を作成してから10年間、当該計算書類等を保存しなければならない。

(計算書類等の備置き及び閲覧)

第59条 当法人は、各事業年度に係る第56条各号に掲げる計算書類等を、定時総会の日から2週間前の日から5年間、主たる事務所に備え置くものとする。

2 会員及び債権者は、当法人の業務時間内に、前項に掲げる計算書類等の閲覧等の請求をすることができる。

(剰余金の不配当)

第60条 当法人は、剰余金の配当はしないものとする。

(残余財産の帰属)

第61条 当法人が解散した場合に残余資産があるときは、総会決議により、東京都又は類似の事業を営む公益的団体に帰属させるものとする。

### 第10章 定款の変更及び解散

(定款の変更)

第62条 この定款は、総会の決議によって変更することができる。

(法人の解散)

第63条 当法人は、総会の決議その他法令で定められた事由により解散する。

### 第11章 事務局

(事務局の設置)

第64条 当法人の事務処理のため、事務局を設置する。

2 事務局には、事務局長及び事務局員を置く。

3 事務局員は、理事会決議を経て、理事長が任命する。ただし、非常勤職員を採用するときは、理事会承認を得て、事務局長が決定する。

4 事務局の組織及び運営に関する事項は、理事会決議により別に定める。

(事務局に備え置く書類)

第65条 事務局には次の書類・帳簿を常に備え置かなければならない。

- 一 定款
- 二 会員名簿
- 三 役員及び職員の名簿
- 四 総会及び理事会の議事に関する書類
- 五 事業計画書及び収支予算書
- 六 事業報告、損益計算書、貸借対照表及びこれ等の附属明細書
- 七 監査報告書
- 八 登記に関する書類
- 九 その他定款及び法令で定める書類帳簿

## 第12章 雑 則

(マンション管理士以外の会員)

第66条 当法人は、マンション管理士以外の者を会員としてはならない。

(定款に定めのない事項)

第67条 この定款に定めのない事項については、すべて法人法その他の法令の定めるところによる。

## 第13章 支 部

(支部の設置)

第68条 当法人は、必要に応じて支部を置くことができる。支部は、単独の区市ごとに設置することを原則とする。ただし、近接する二以上の区市町村からなる支部を設置することもできる。

- 2 支部の設置等については理事会の決議を得なければならない。
- 3 支部は、当法人の会員以外の者を支部会員としてはならない。
- 4 支部設置及び運営に関する事項は、別に細則を定めるものとする。

(会員の支部への所属)

第69条 会員は、住所又は事務所所在地にある支部のうち、いずれか一つの支部に所属し、支部会員にならなければならない。

- 2 会員は、同時に二以上の支部の支部会員となることはできない。

(当法人会員以外の支部会員)

第70条 支部は、当法人の会員以外の者を支部会員としてはならない。

(支部の事業活動の制限)

第71条 支部は、行政機関等の施策の協力者として求められる公正性及び中立性を保持しなければならない。

2 支部は、前項に定める中立性及び公正性を保持するため、次の各号に掲げる者を相手方として業務等の受委託又は請負（以下「受委託等という。」）に係る契約を締結してはならない。ただし、国・地方自治体の政策に関する事業を除く。

一 次項で規定する管理組合等（以下、「管理組合等」という。）との間で営利を目的としてマンション管理に関わる業務等の受委託等に係る契約を締結し得る者

二 管理組合等

3 前項の「管理組合等」とは、適正化法上、マンション管理士に対して相談を寄せ得る以下の四者を指す。

一 区分所有法第3条または第65条の団体の管理者

二 区分所有法第3条または第65条の団体で法人である者

三 区分所有者

四 団地建物所有者

## 附 則

第1条 当法人の設立時社員の氏名及び住所は次の通りとする。

親泊 哲 東京都町田市原町田四丁目19番12-1301号  
若林 雪雄 東京都江東区千石三丁目1番24-1025号  
品田 政彦 東京都墨田区石原二丁目26番7号

第2条 当法人の設立時役員は、次の通りとする。

設立時理事 親泊 哲、品田 政彦、若林 雪雄  
設立時監事 田村日出男、小塚 伸一  
設立時代表理事  
東京都町田市原町田四丁目19番12-1301号 親泊 哲

第3条 当法人の設立初年度の事業年度は、第50条の規定にかかわらず、当法人成立の日から平成27年12月31日に終わる。

第4条 当法人は設立後、平成27年5月31日までの間に臨時総会を開催し、理事12名以内を追加選任する。

第5条 新組織移行日（前条に定める臨時総会の開催日）の前日における所属マンション管理士の入会金は免除する。

第6条 この定款第10条第1項に定める住所又は事務所の移転に伴って、当法人以外の会員会から当法人に入会し直すときは、入会金は免除する。ただし、他の会員会所属時において年会費等の滞納があるときは、入会を認めないものとする。

第7条 この定款第10条の規定にかかわらず東京都内に勤務地（ただし、勤務地がマンション管理士の事務所の場合は除く。）を有し、かつ東京都内の会員会に所属を希望するマンション管理士は、日管連新定款移行日（平成27年8月31日）から1年を経過する日まで当法人に所属することができる。ただし、重複して他の会員会に所属することはできない。

第8条 当法人は、日管連定款附則第4条第1項の規定に基づいて、平成27年5月31日までに、日管連への入会申請を行うものとする。

以上、一般社団法人 東京都マンション管理士会 を設立のため、設立時社員親泊 哲、品田政彦及び若林雪雄の定款作成代理人である小塚伸一

は、電磁的記録である本定款を作成し、電子署名する。

平成26年12月17日

東京都町田市原町田四丁目19番12-1301号  
設立時社員 親 泊 哲

東京都墨田区石原二丁目26番7号  
設立時社員 品 田 政 彦

東京都江東区千石三丁目1番24-1025号  
設立時社員 若 林 雪 雄

上記設立時社員の定款作成代理人  
埼玉県坂戸市千代田四丁目7番28-101号  
司法書士 小 塚 伸 一

附 則

第1条 この改正定款は、平成28年2月26日開催の第1回定時総会の承認決議があった時に発効する。

ただし、第55条第2項の規定については、平成29年1月1日から発効するものとする。

第2条 第31条第3項及び第6項の規定については、第3回定時総会で承認決議があった2018年（平成30年）2月23日から発効するものとする